

【小学校・交流に関わる体験活動】

はなのき活動（ふれあい活動，奉仕活動，なかよし活動）

岐阜県高山市立花里小学校

学校の概要

学校規模

学級数：13学級（内特殊学級1学級）

児童数：309人

教職員数：20人

体験活動の観点からみた学校環境

高山市は岐阜県の北部に位置し、海拔573m、人口約66,000人、四方を山で囲まれ、東に乗鞍、穂高の北アルプス連峰を眺め、西に加賀の白山を望み、中央を南北に流れる宮川をはさんで東西に市街地を形成し、市外には田や畑が多く風光明媚な静かな市である。

学校は、JR高山駅から1km離れた旧住宅地域にある。校区は、旧住宅地と新興住宅地、田園地帯の3つの地域で構成されている。

校庭の片隅に、小さな「花里の森」があり、その森に、「花の木」が植えられている。その「花の木」から、特色ある教育活動を「はなのき活動」と名付けた。

学校の近くには、日本赤十字病院介護老人施設「日赤はなさと」がある。その介護老人保健施設との交流も行っている。

本校は、開校16年目の歴史の浅い学校であるが、地域の方々は学校の教育活動に対して非常に協力的である。

連絡先

〒506-0026

岐阜県高山市花里町1-54

電話：0577-35-1221

FAX：0577-37-0620

ホームページ：

<http://www.hidanet.ne.jp/~hanastjs/>

電子メール：hanastjs@hidanet.ne.jp

体験活動の概要

活動のねらい

様々な立場の方との交流を通し、相手の気持ちや立場を考えて行動する子を育てる。

奉仕活動を通し、社会の一員として助け合って生活していこうとする子を育てる。

上級生と下級生がお互いの役割を果たし、一緒に活動する中で、思いやりの心や責任感を育てる。

主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

【ふれあい活動】

学年ごとに交流相手を決め、年間で数回（15～20時間）交流活動を行っている。

【奉仕活動】

各学年で仕事を受け持ち、全校のために日常的に行う活動と、全校で校区の長寿会の方とともに、校区の中央を流れている苔川、地下道、公園の清掃活動「全校クリーン作戦」を年一回行っている。

【なかよし活動】

校内の縦割り班で、日常的に行う活動と、遊び、集会などの楽しい活動を週1回、月1回の間隔で行っている。

活動の成果

- ・ いろいろな立場の方と交流を行うことによって、優しい心情が育ち、相手の立場を考えて行動できる子が多くなっている。
- ・ 地域の長寿会の方をはじめ、いろいろな立場の方々に、学校に関わっていただき、学校や児童の実態を知ってもらうとともに、共に子どもたちを育てていこうという地域の活力向上にもつながっている。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

6年間の小学校生活を通して、「はなのき活動」を段階的に体験する。その中で、子どもたちを次のように育てていきたいと考えている。

#### 【ふれあい活動】

- ・ 相手の気持ちや立場に気づき、相手の気持ちを考えて行動する子を育てる。

#### 【奉仕活動】

- ・ 主体性を持ち、継続して奉仕活動を体験することにより、社会の一員として助け合って生活していこうとする子を育てる。

#### 【なかよし活動】

- ・ 上級生と下級生と一緒に活動する中で、お互いの立場での役割を知り、思いやりの心や責任感のある子を育てる。

### (2) 全体の指導計画

#### ア 活動の名称

「はなのき活動（ふれあい活動・奉仕活動・なかよし活動）」

#### イ 実施学年と活動内容

##### 【ふれあい活動】

各学年ごとに、次のように主な交流相手を決め、年間で数回程度の交流活動を行っている。

- 1年生 - 保育所    2年生 - 校区の長寿会・1年生  
3年生 - レクスポの会（障害のある方）    4年生 - 介護老人施設  
5年生 - 視覚や聴覚に障害のある方    6年生 - 外国の方

##### 【奉仕活動】

全学年 - 全校クリーン作戦

- 1年生 - 中庭の清掃    2年生 - うさぎの飼育    3年生 - 花壇づくり  
4年生 - 校庭の清掃    5年生 - 給食コンテナ当番    6年生 - 校内ボランティア

##### 【なかよし活動】

校内の縦割り班で、掃除、遊び、集会等の日常活動と、校内オリエンテーリング「作って遊ぶ会」や「ふれあいランチ」等のなかよし集会を週1回、あるいは月1回といった間隔で実施している。

#### ウ 教育課程上の位置付け

ふれあい活動は、平成12年度から「総合的な学習の時間」で実施している。

奉仕活動、なかよし活動は、週時程に位置付け、日常的な活動として実施しているもの（奉仕活動、なかよし掃除、なかよし遊びなど）と、特別活動や学校裁量の時間で実施するもの（クリーン作戦、なかよし集会など）がある。

#### エ 継続の状況等

自校では、特色ある教育活動である「はなのき活動」を通して児童の自発的、自治的活動を促している。

この「はなのき活動」の三つの活動は、約10年前から継続して取り組んでおり、校風として位置付き、長年地域の方々からも温かい支援や協力を得ている。

本校では、「はなのき活動」の全学年発表会を3月に位置付けており、各学年の活動の紹介と学習成果をまとめ、発表し、次年度への継続と発展を図っている。

## 2 活動の実際

### (1) ふれあい活動 ～5年生の事例 <障害のある方との交流を通して>

#### ア 事前の指導

国語の教科書に「その人と出会って」という題材がある。この題材を体験活動が始める前に位置付け、学習と関連付けながら体験活動のきっかけとした。また、4年に一度開催されるパラリンピックも導入に位置付け、障害のある方へ子どもたちの関心をもたせるようにした。

#### イ 活動の展開

##### (ア) 活動の場や施設

本単元では、学年全体を子どもの興味・関心や課題に応じてグループをつくり、学習を進めていくため、多目的室のような広い教室やスペースで学習を行っていくようにしている。また、疑似体験を行うため、廊下や体育館、運動場、時には校外へ出て行くこともある。

##### (イ) 単元指導計画 <全20時間>

出会い	パラリンピックに関する新聞記事や資料を集め、思いや考えを交流させる。 障害のある方に会って聞いてみたいことをもたせる。 <3時間> 子どもたち全員に、疑似体験をさせる。 <2時間> 第1回交流会を開く。 <2時間>
課題決定	子どもたちの思いを大切にしながら、第2回交流会開催を決定し、子ども一人一人が課題をもって向かえるようにする。 「手話を学び、歌のプレゼントをしたい。」 「点字を学び、自分の思いを詩にしてプレゼントしたい。」 「介助の方法を学び、学校内を案内したい。」 <2時間>
課題追求	これからの学習計画書を作成させ、課題解決の見通しをもたせる。 <8時間>
課題解決	第2回交流会を開く。 <2時間>
まとめ	これまでの活動で学んだことや感想を発表し合う。 <1時間>

##### (ウ) 児童の活動の状況

###### 疑似体験

学年の子どもたち全員が、車椅子に乗ったり、アイマスクをしたり、耳栓をしたりして歩く体験を運動場で行った。アイマスクや耳栓をして歩いた子どもたちは、安全だと思っている運動場でさえ、恐怖心を感じ、自分の周りに何があるか分からず「怖い」という言葉を発していた。また、車椅子に乗った子どもたちは、1日5分の体験を1週間続けたが、さらに学校周辺の道路にある歩道でも車椅子に乗ってみた。狭く障害物があったり、坂やでこぼこがあったりして非常に乗りにくいことを実感し、交流会で聞いてみたいことへ意識の高まりにつながった。

###### 第1回交流会

障害のある方との出会いということで、話を聞くことが主となった交流会ではあったが、体験して実感したことが多く質問として出てきて、真剣に耳を傾け、「自分たちにできることはないか。」「もっと障害のある方のことを知りたい。」等、子ども一人一人が感じたり思ったりすることに広がりが出てきた。

手話、点字、介助方法の体験（第2回交流会に向けて）

第1回交流会を終えて、もう一度交流会を行いたいということになった。そこで、「もっと仲良くなりたい」という学年共通の願いをつくり、それに向けて手話、点字、介助方法等体験を自己選択していった。そして、子どもたち自身で市の社会福祉協議会を通してボランティア団体に連絡をとった。2時間程度、基本的な体験をし、その後それぞれのグループの目的に即して指導をしていただき、第2回交流会へ向けて準備を進めた。

第2回交流会

第1回目の交流会は、子どもたちが話を聞くという受け身的なものであったが、第2回目は、自分たちの願いを達成しようという主体的な交流会となった。交流会を終えて、子どもたちは自分たちもこんなことができたという達成感や役に立てた、喜んでもらえたという充実感を持ち、学びの楽しさを体感できた。



#### ウ 事後指導

全校児童が集まる集会で、学年の活動を紹介し合った。保護者の方にも案内を出し、各学年が1年間どのような体験活動を行ってきたか発表し合い、お互いの学習の成果とがんばりを認め合った。

### (2) 奉仕活動 ~事例 <全校クリーン作戦>

#### ア 事前指導

4年生が普段から行っているごみ拾いを4年生だけに任せているのではなく、全校のみんなでもやろうという6年生の声のもと、昼休みに子どもたちだけで校内のクリーン作戦を行う。また、校内だけでなく自分たちが生活している地域もきれいにしてい



くことを決め、校区の長寿会の方々にも一緒に参加して下さるようお願いした。

#### イ 活動の展開 <学校行事2時間>

(ア) 活動場所(子どもたちが遊んだり、登下校する歩道等)

1年生~学校周辺の歩道又は校区の公園      2年生~校区にある神社

3年生~通学路にある地下道      4, 5, 6年生~校区を流れる河川

(イ) 協力者

校区の長寿会の方約60名。各学年に分かれて入っていただき、一緒に活動する。

(ウ) 児童の活動状況

長寿会の方とは、交流をよく行っているので、高学年の子どもたちはよく知っている。そのため、ごみや汚れがあっても気づかない子どもたちによく声をかけてくださり、子どもたちも素直に聞いて活動を進めている。また、ごみ拾いや掃除をしながら、「ここにあるごみ

は自分たちが遊んでいて出したごみだろうか。」と改めて考えたり、「なぜ、ビニール袋が川の底にあるのか。」と疑問をもった子が多くあり、地域での生活を振り返る機会になった。

#### (エ) 支援

集めたごみの処理は、事前に市の清掃課の方へ連絡を取り、ごみ収集日に家庭から出されたごみといっしょに集められる。

#### ウ 事後指導

当日のがんばりを認め合う場を後日設定し、感想と自分や仲間の良かった姿を発表し合ったり、普段自分たちが遊んでいる公園を掃除してくださっている人のことを話題にし、ごみを持ち帰ることを確認し合ったりした。

#### (3) なかよし活動 ~事例 <なかよし集会> (学校裁量の時間：月に1/2単位時間)

<なかよしフェスティバル> (児童会行事：年間5時間)

#### ア 事前指導

6年生の子どもたちが中心となって企画・運営していく。オリエンテーションを開いて、昨年度の内容を思い出させながら、願いや行ってみたい内容を話題にし、1年間の見通しを持たせる。

#### イ 活動の展開

##### (ア) 活動内容

なかよし集会 (月に1/2単位時間)

6年生の子どもたちが企画・運営

- ・委員会や学年からのお願い ・返事自慢大会
- ・未成年の主張 ・特技の紹介 等

なかよしフェスティバル (年間4回, 5時間)

全校で14の縦割りグループをつくり、各グループごとに毎回のフェスティバルのテーマにそって内容を考えさせていく。

- ・ 作って遊ぼう集会 (1時間)

6年生が作って遊ぶものを考え、縦割りグループ内の他学年の子どもたちに教え、完成したら各自作ったもので遊ぶ。

- ・ 校内オリエンテーリング (2時間)

グループごとに他のグループの子どもたちが来て遊べる場を考え準備する。当日は、グループごとに考えた遊び場 (お化け屋敷, ペットボトルボーリング, 風船リフティング等といった遊び場) を回ってグループの仲間と楽しむ。

- ・ なかよし雪像づくり (1時間)

5, 6年生が、昼休みに運動場に積もった雪を集めておき、グループで決めた雪像の形につくりあげていく。

- ・ さよなら集会 (1時間)

5年生が中心となって、お世話になった6年生に感謝の気持ちを表したり、楽しんでもらったりする会を行う。



##### (イ) 児童の活動状況

1~5年生まで子どもたちは、毎回、6年生がどんな行事を考えてくれるか楽しみにしている。また、6年生の呼びかけに、準備の段階から必要なものをみんなで集めてきたり、遊

びの内容やルールを全員で考えてきたりして取り組んでいる。当日は、グループの仲間思いっきり楽しみ、後片づけ等も全員で行う。

#### ウ 事後指導

各学年のめあてが達成できたか自己評価や相互評価を行い、自分たちの成長ややさしさあふれる言動を認め合った。

### 3 体験のための体制

#### (1) 学校と地域、関係団体との連携

1, 2年生が交流する保育所や長寿会では、交流する時期を年間行事予定にそれぞれ入れていただいている。

3, 5年生が交流する障害のある方への連絡調整は、市の社会福祉協議会にお願いし、送迎も社会福祉協議会の方が行ったださる。また、手話や点字等を学ぶための講師を探す場合も社会福祉協議会から紹介していただいている。

#### (2) その他

全校クリーン作戦では、天候や川の増水状況などによって、中止したり活動場所の変更をしたりするなど、安全に配慮して行っている。

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ・ 様々な立場の方々との交流を通して、相手の気持ちや立場を考えて行動できる子が多くなってきた。また、交流の相手の方々が次の交流の機会を楽しみにしてくださっているので、その気持ちがどの学年の子どもたちにも取組への励みとなって、主体的に学習に取り組む姿となって現れてきている。
- ・ 奉仕活動やなかよし活動の中で各学年が役割を受け持ち、自分が全校の仲間のために役立っているという実感や存在感が生まれ、行動の原動力につながっている。

#### (2) 課題

円滑な交流活動が実施できるよう、個々の児童に対して適切な指導を行う必要がある。

### 5 今後の方向

これまでは、体験活動を主として行ってきたが、今後は、ふれあい活動を総合的な学習として取り扱っていくため、体験活動とともに調査活動も取り入れて子どもたちの見方、考え方、感じ方に応じて、より広く学習活動が進められるようにしていきたい。

#### 【本事例活用に当たっての留意点】

本事例は、各学年の児童の発達段階を踏まえながら、6年間を通して交流体験活動に取り組んでいるものである。また、特別活動、総合的な学習の時間、更に学校裁量の時間も含め、年間を通して計画的に実施されていることに大きな特徴がある。年度末には、全学年で発表会を設け、この体験活動での思いや学びを児童が共有し、次年度への意欲を高めるとともに、保護者や地域の人々への広報、連携協力にも留意されている。

このように、児童の自主性を育もうとする学校全体の教育活動として構造化されていることは、単なるイベント的な体験活動に終わらず、児童の社会性や豊かな人間性を育む上で何よりも重要である。他方、こうした教育活動では、その試みが総合的で地域全体にも広がるので、その評価の在り方や方法等を十分工夫し、次年度以降の充実発展につなげることが必要である。